

宮本研戯曲集



夢・桃中軒牛右衛門の

男・女・夢についての三部作

宮本研戯曲集

夢・桃中軒牛右衛門の

女・夢についての三部作

河出書房新社

夢・桃中軒牛右衛門の

—男・女・夢についての三部作—

昭和53年 9 月 3 日初版印刷

昭和53年 9 月 8 日初版発行

著者 宮本 研

装幀者 多田 進

発行者 佐藤皓三

発行所 株式会社 河出書房新社

東京都新宿区住吉町95

電話 営業 (355) 5311

編集 (355) 5321

振替口座 (東京) 0-10802

印刷 三松堂印刷株式会社

製本 小高製本工業株式会社

©1978 KEN MIYAMOTO

定価はカバー・帯に表示してあります

目次

櫻ふぶき日本の心中 5

からゆきさん 75

夢・桃中軒牛右衛門の 145

あとがき 229

上演記録 233

宮本研戯曲集

夢・桃中軒牛右衛門の

男・女・夢についての三部作

櫻ふぶき日本の心中

——劇外劇と劇中劇による9場——

役

閤
の
市

鳥の市

二歩の市
くの市(万)

く
の
市
(
万

半長靴

雨

ゲ ヅ
ゲ 5

夕

夕

刑事(擧)

遣り手

若い娼妓（花栄）

消防団長

青年團長

駐在

母親

青年團一

二

消防団一

11
— —

父

兄(正)

女
中

老
刑
事

地役人

捕
り
手

牢役人

非人

通行
人

見物人

瓦版売り

一 ある旅立ち

中山道は碓氷峠の間道、六地藏が並んだ辻のあたりに、桜の樹が一本、丑三ツの闇にぼうと霞んでいる。山おろし。だれが歌うのか、追分節が聞えてくる。

小諸出てみりや

浅間の山に

けさも三筋の煙立つ……

闇の中、足下をさぐりながら、旅の座頭があらわれる。座頭、見えぬ眼で夜空を見上げながら――

闇の市 旅から旅、その日その日の人様のお情にすがっております、はぐれ座頭の闇の市でございます。信濃

の国は善光寺様へお詣りをして、中山道を江戸へと向かう道中でございますが、夜道をとつての急ぎ旅、思いの外はかまひりまして、碓氷峠はどうやら六地藏の辻まで来てしまったようでございます。(汗を押さえながら) 桜の樹があつて、その下にお地藏が六つ、そのあたりで一服するがよいと教わつて来たのですが、でも聞けば、このあたり、追剥ぎが出るとか出ないとかの物騒な噂……

時の鐘。それを合図にドロドロになる。

闇の市 噂をすれば影、途端に、どこぞやらからなまぐさい風。(ト、あたりに気を配り) くわばら、くわばら、かくなる上は一刻も早く峠をくだり……

ト、行きかけるところへ――

地役人 待った、座頭！

捕り手一 御用だ！

捕り手二 御用！

捕り手三 御用！

捕り手四 御用！

ト、声がかかり、市、御用提灯に囲まれる。

闇の市 待てとおっしゃるのはこのわたくしでござい
すか？

地役人 いかにもそうだ。面を見せい。

闇の市 座頭でござりまする。これ、この通り。

地役人 手形はあるか？

闇の市 怪しい者ではございませぬ。手形ならば、こ
れ、ここに。

地役人 闇の市と申すか。こんな夜更けにどこへ行く？

闇の市 官の足下に昼夜はございませぬ。昼日中はかえ
って往來の邪魔、急ぎの用が出来ました故、夜道をえ
らんで江戸へとまいるところでございます。……した
が、お役人様には、こんな時分、なんのご詮議で？

地役人 赤城の山中に賊が籠った。囲んで攻めたのだ
が、こぼれた者がいる。

闇の市 賊……と申しますと、なんぞ、やくざ衆のもめ
ごとでも？

地役人 武士だ。武士の小伴どもがご政道に弓を引こう
としたのだ。

闇の市 滅相な。天に向かつてはじいた矢はおのれに戻

って来るのが条理、いかようなご了簡だったかは存じ
ませんが、はは、莫迦をなさるおさむらいさん方もい
らっしゃるものですねえ。……では、わたくしは、こ
れにてご無礼を……

地役人 待て、闇の市。

闇の市 まだ、なにか？

地役人 ご苦労だが、番所まで来てもらおう。

闇の市 番所まで？……わたくしがでございますか？
……でも、なぜ、このわたくしが？

地役人 賊は座頭なのだ、闇の市。

闇の市 え？

地役人 (捕り手たちに) この者に繩を打てい！

捕り手一 御用だ！

捕り手二 御用！

捕り手三 御用！

捕り手四 御用！

地役人 神妙にしろ、闇の市！

捕り手たちが手をかけようとするのを、市、よろ
よと逃げまわりながら――

闇の市 これ、なにをなさいます。……人様のお肩につ

かまらせていただくしか能のないと盲に、なんでそのような大それたことが……急ぎの旅でございます。お見逃しくさいます。……あ、危のうございます。怪我をいたします。……お構いなく、お構いなく。……あ、もし、お怪我をなさいますよ。……ああ、もう、本当に、お聞き分けのないお方ばかりだなあ！

市、体をねじる。と、捕り手の一人が切り裂くような悲鳴を上げて地面に倒れる。いつの間にか、市の仕込杖が抜かれている。

地役人 案の定、ただの座頭じゃなかったな、闇の市。
(捕り手たちに) 捕えろ。容赦はいらん、捕れ！

捕り手一 御用だ！

捕り手二 捕った！

捕り手三 捕った！

捕り手四 御用だ！

闇の市 曲りなりにも座頭、殺生だけはと心に決めているんでございますが、どうしてもとおっしゃるならば非もござんせん。おとなしくなっていましたよ。

捕り手四 御用だ！

市、杖をはらう。捕り手四の悲鳴。倒れる。

地役人 相手は盲だ。囲め、囲め。捕れ！ 捕れ！

捕り手三 御用だ！

斬る。悲鳴。

闇の市 右を見ても真暗、左を見ても真暗、座頭の鼻先はどっちを向いても三途の闇。それでいながら物が見えるとは、ああ、因果な話だな。

捕り手一 御用！

捕り手二 御用だ！

杖がおどる。悲鳴がして、捕り手一、二、それに地役人までが斬られている。市。静かに杖を納めて――

闇の市 所もあらうに、お地藏さんの眼の前でとんだ不調法をしまったな。(暗がりに) もし、もうよござんすよ、鳥の市さん。

物蔭から座頭が出る。

鳥の市 え？

鳥の市、地役人の懐ろにつっこんでいた手をあわてて引こめる。

闇の市 懐中物をお探のなら、ここにありますよ。

ト、巾着の束を差し出す。鳥の市、照れながらそばに来て――

鳥の市 いや、驚いたのなんのって。大した使いっぶりです、闇の市さん。お蔭で助かりましたよ。

闇の市 沓掛を出たところで声をかけられ、峠は物騒だから連れになってくれとせがまれ、牛は牛づれ馬は馬づれとここまで道中して来たんですが……お前さん、このわたしになにか隠していなさるね？

鳥の市 このわたしが隠しごとを？……（笑って）そりゃ、市さん、おたがいにくうして座頭の身の上だ。人には聞かれたくねえ話の一つや二つはございますよ。

したが、この鳥の市、お世話になった市さんにご迷惑がかかるような隠しごとはしておりません。それだけはお安心を。……といっても、連れをおねだりしたばかりに、市さんにこんな殺生を。（ト、死体にとりすがり）ごめんなさいましよ、みなさん。出会った相手がおさむらいの小伴ならお手柄でもございましたらうに、選りに選って一番の悪い籤を引いちゃいましたねえ。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏……

闇の市 鳥の市さん。

鳥の市 へ？……なにか？

闇の市 市さんは、按摩だけじゃなく、護摩の灰もなさるんですかい？

鳥の市 いや、まいりました、まいりました。さすが、市さん、なにからなまでに役者が上だ。こうなりや、どうです。もし足手まといでなかったら、市さんの行かつしやるところ、たとえ血の池、針の山、どんな苦勞もいけません故、ひとつこの鳥の市をお供にしてやってはくだいせんか。七年前、空とぶ鳥にあこがれて、崖をとんだが元の俄か盲、囀るばかりで度胸はなしの鳥の市。でも、多少はこの眼で世間も見ておりますよ。（突然、うしろを振りかえり）おい、そこにいるのはどこの土もぐらだ！

ト、地蔵の蔭を杖で指し――

鳥の市 右から数えて六番目、日光地蔵の蔭に人がいる。六の裏なら一。……してみると、お前も座頭だな？

ジーンズをつけた若い座頭が出てくる。琵琶を抱いている。

二歩の市 無残やな忠兵衛、われさえ浮世忍ぶ身に、梅川が風俗の人の目立つを包みかね、借り駕籠に日を送り、奈良の旅籠屋、三輪の茶屋、五日三日夜を明かし、廿日あまりに四十両、使い果して、二歩の市。

鳥の市 駈け落ち者か。……と、片割れはどこにいる？
二歩の市 その片割れを探しあぐねての旅衣。一部始終は聞きました。もしお邪魔でなければ、このわたしもぜひお供に。

鳥の市、闇の市を。

闇の市 一盲衆を率いれば、もろともに迷界に迷うといえますよ。たどりつく先はいずれ地獄、それでもよろしいのかな。

二歩の市 どうせ、この世も生き地獄、同じ地獄なら、果てまで行ってみとうございます。

鳥の市 苦あれば楽、地獄の道が果てればそこは極楽……

闇の市 したが、その前に三途の川。地獄道では火で焼かれ、餓鬼道では刃でさいなまれ、畜生道ではたがいに共食いの三悪道。地獄めぐりはこわいぞや。

二歩の市 でも、その先にしかあの世はございません。

闇の市 悔まぬな？

鳥の市 見えぬこの眼にかけて。

二歩の市 尽未来……

時の鐘。空を仰いでいた闇の市、やにわに仕込杖の鞘をはらう。と、夜目にも白く、桜の花片が雪のように舞い散ってくる。市、片掌を闇に差し出し――

闇の市 地獄めぐりのはなむけに……彼岸桜の狂い咲きだわ！

鐘――

闇の市 行くぞ、鳥の市。

鳥の市 離れるな、二歩の市。

三人、杖を手引きに、峠の闇に消えて行く。

二 座頭たちの旅（一）

江戸は日本橋南詰の高札場。橋のたもとに、五尺に三尺の新しい晒し小屋が建てられ、青竹で囲いがしてある。小屋にはまだ人はいない。通行人――

通行人一 おや、晒し小屋が建ってるよ。

通行人二 と、また心中かい？

通行人一 相對死はきついご法度、それもうまく死ねればいいが、もし死にぞこなえば、三日晒しの非人の手下だ。

通行人二 日本橋、三日すぎると人でなし。

通行人一 四日目は鳥追いで通る日本橋。こりや、ぜひ

見物に来ずばなるまいて。

通行人二 見るは眼の毒、眼の馳走……

通行人一 極楽極楽。（ト、去る）

入れちがいに、闇の市、鳥の市、二歩の市の三人がやって来る。

鳥の市 見るは眼の毒、眼の馳走だなんて、眼明きを笠に着て、嫌なことをいいやがる。

闇の市 さて、ここが日本橋の南詰だ。どこかそこいらに高札があるはずだが。

鳥の市、高札をさぐり当て、杖の先で字をなぞる。

鳥の市 男女申合せ相果て候者之儀、自今死骸取捨て、

一方存命に候わば解死人……且又双方存命に候わば三

日晒しの上非人の手下……

闇の市 まだその先に先がある。

鳥の市 総じて、此の類絵草紙並びに歌舞伎狂言等に作り候事、堅く仕る間敷、若し相背き候わば急度申付く可き事……あ、こりや大変だ。（ト、戻って来て）しかし、旅に出た出っ鼻に心中者のお晒しにぶつかるとは果報なことすねえ。とはいっても、悲しやな、眼は見えず……

闇の市 案ずるな。きょうの不届き者は座頭向きだ。

鳥の市 座頭向き?……とは、いったい、どういうことで?

闇の市 それより、二歩の市はどこにいる?

鳥の市 そういえば、二歩の市も心中くずれ。おい、二歩の市、そんなところでなにをしている?

二歩の市、小屋の前にたたずんでいる。瓦版売り
がやって来る。見物人もぞろぞろと――

瓦版売り さあ、買った、買った。新吉原は京屋の女郎

お万の片割れ心中、お裁きがついてもうじきここでお
晒しだよ。さあさ、片や堅気の堅物に、片や女郎の片
思い、片意地張った肩入れに、片一方から傾く家運、
かくなる上はと覚悟を固め、寝間の語らいも経帷子、
片肌ぬいだる肌と肌、片時離さぬ形見の刀、固唾をの
んで片手にもち、形の如くに無理心中。……と思いき
や、意外や意外、男は死んで女は元氣。読んでびっく
り、五でがっくり、その顛末がここにあるよ。さあ、
読んだり、読んだり、買ったり、買ったり!

見物人一 一枚くれ!

見物人二 おれにもだ!

見物人三 おれにも!

見物人四 おれにも一枚だ!

見物人たち、争って買う。

瓦版売り さあ、買った、買った、新吉原は京屋の女郎
お万の心中、もうじきここでお晒しだよ……(ト、去
る)

見物人たち、瓦版を読みながら囁り合う。

見物人一 なに、男の首に腰紐を巻きつけて?

見物人二 いいかえ、いいかえ、どんな心持かえ?……
と締めつけ、締めつけ……

見物人三 と、男は一ト声、おれはもう行く、お前はま
だか……

見物人四 と、絶命した。

見物人一 なになにに……すると、女は脇差を逆手に、わ
れとわが喉めがけてぐさりと一ト突き……

見物人二 したが、外れて命びろい。

見物人三 すると、女はなに思ったか、やにわに男の前
をひろげて、顔をばうずめ……

見物人四 くつ、くつ、くつ、と笑いながら……

見物人三 泣きながら、だ。

見物人一 手にした脇差持ち直し、いきなり、ざくりと……

見物人二 いきなり、ざくりと……

見物人三 を切り落し……

見物人四 切り落し……

見物人五(女) なにさ、けちけちしないで、ちゃんと読んでおくれよ！

見物人四 読んでくれたって、こちとらにも読めねえんだい。

見物人三 ×××××、×の字が四つも入ってるんだよ。(二に)なあ。

見物人二 おう。

見物人五 四つ？……なんだろう。(ト、指を折っているが)やだ、お前さんたち、そんなことも分らないのかい。莫迦だねえ。

ト、男たちの尻をぶち、大笑する。

見物人一 あ、来た来た！

見物人たち 来たぞ、来たぞ。

ト、脇に寄る。女である。浅黄色の牢着を後手に縛り上げられ、非人に曳がれている。そのうしろから、牢役人と捨札をかついだもう一人の非人。女、小屋の杭にくくりつけられ、莫塵に坐る。捨札が立てられ、役人、見物人たちに向かって大音声――

牢役人 新吉原京屋抱え遊女夕霧こと万、禁令を破り、

越前屋手代重三郎と相对死を図り、男は遂げたるにこのれは遂げず、存命しある罪軽からず。よって、定めにより、三日晒しの上非人手下に申付く可き事。

役人、それきりでいなくなる。見物人たち、囲いにわっと群がり、女をのぞく。

見物人一 なるほど、さすがにいい女だ。

見物人二 紅白粉を落したところがまた色気だねえ。

見物人五 けど、この顔で本当にあんなことをやっちゃまったのかい？

見物人三 分らねえもんだな。

見物人四 全くだ。